聖書の学び資料 牧師 森 言一郎　　年　月　日

《創世記　4章1節～26節》

◆ 読んで・聴いて 思い巡らそう

【 メ モ ・ Memo 】

〇心に届いたみ言葉
〇教会に示されたこと
〇「悔い改め」
〇気付き
〇時代への呼びかけ
〇イエスさまとの関連

◆ 聖書味読　翻訳の違い

創世記 4章9節

【新共同訳】4:9　主はカインに言われた。「お前の弟アベルは、どこにいるのか。」カインは答えた。「知りません。わたしは弟の番人でしょうか。」

【共同訳】4:9　主はカインに言われた。「あなたの弟アベルは、どこにいるのか。」彼は言った。「知りません。私は弟の番人でしょうか。」

【口語訳】4:9　主はカインに言われた、「弟アベルは、どこにいますか」。カインは答えた、「知りません。わたしが弟の番人でしょうか」。

【70 人訳】4:9 神はカインに向かって言った。「おまえの弟アベルはどこにいるのだ？」彼は答えた。「わたしは知らない。わたしは弟の見張りではありません。」

【新改訳 2017】4:9　【主】はカインに言われた。「あなたの弟アベルは、どこにいるのか。」カインは言った。「私は知りません。私は弟の番人なのでしょうか。」

【新改訳】4:9　主はカインに、「あなたの弟アベルは、どこにいるのか。」と問われた。カインは答えた。「知りません。私は、自分の弟の番人なのでしょうか。」

【フランシスコ会訳】4:9　そこで主はカインに仰せになった、「お前の弟アベルはどこにいるのか」。カインは答えた、「知りません。わたしは弟の番人なのでしょうか」。

【岩波訳】4:9　ヤハウェはカインに言った、「あなたの弟アベルはどこか」。彼は言った、「知りません。私が弟の守り手でしょうか」。

【関根訳】4:9　ヤハウェがカインに言われるのに、「君の弟のアベルは何処にいるのだ」。カインは答えた、「知りません。私が弟の番人だというのですか。」

【現代訳・尾山訳】4:9　主はカインに、「弟はどこにいるのか」と聞かれた。カインは、「知りません。私は弟の番人ではありません」と答えた。

【ＬＢ】4:9 そのことがあってから、神様はカインに尋ねました。
「弟はどこにいる？　アベルはどうしたのだ。」　「そんなこと、なぜおれが知ってなきゃいけないんです？　弟の行く先をいつも見張れとでもおっしゃるんですか。」

◆ み言葉を生き　み言葉を伝えるために

①　広辞苑「カイン・アベル」をこう説明する。

【カイン・Cain】　旧約聖書創世記に記されているアダムとエバとの長子。神が農夫である自分の捧げ物ではなく、弟の牧者アベルの捧げ物を喜んで受けたため、嫉妬のあまりアベルを殺した。

【アベル・Abel】　旧約聖書創世記に記されているアダムとエバとの子。

②　カインが5節で、「激しく怒って顔を伏せた」とき、主が「どうして怒るのか。どうして顔を伏せるのか」と問われる。それは、3章のアダムに対する「あなたはどこにいるのか」と、違いがあるのだろうか。

違いはないのではないか。

③　『青少年のための聖書の学び　創世記』で林嗣夫先生は「カインとアベルの献げ物」についてこう言う。

カインは一生懸命働きましたし、感謝の心ももっていました。だからこそ、神さまへの供え物をしたのです。

それなのに、神さまはカインの供え物を喜んでくださらなかったのです。なぜでしょう。神さまは農作物より羊の肉の方が好きなのでしょうか。いや、そんなことではありません。では、一体、なぜでしょう。

➡　それは分かりません。もし、こうすれば神さまに喜ばれると分かっているなら、人間はだれでもそうします。たとえ神さまを信じていなくても、そうしておいて損はないと考え、神さまの

喜ぶことをするでしょう。

　けれども、神さまの深い御心は人間には分かりません。・・・・・・ですから、われわれは神さまを恐れ、御前にへりくだり、神さまが御心のままに行われることをうけるのです。

④　『青少年のための聖書の学び　創世記』で林嗣夫先生は「ただ一つ分かっていること」としてこう記す。

　ただ一つ分かっていることはカインの高慢です。「何が悪いのだ」と言わんばかりです。神さまの方が悪い、神さまは気まぐれだという態度です。神さまから離れた人間は、真面目であっても、自分を神さまより上に置こうとしています。

　カインは、自分が神さまに逆らっているとは思っていなかったでしょう。だが神さまは、カイン以上にカインの心の中までご存じでした。

⑤ 14節の「わたしが御顔から隠されて、地上をさまよい、さすらう者となってしまえばの状態からの回復を、私たちはどこに見いだせるのだろう。

⑥ 詩編139篇1節～4節を読み直して、この箇所を考えてみよう。

◆聖書協会共同訳より

１　指揮者によって。ダビデの詩。賛歌。／主よ、あなたは私を調べ／私を知っておられる。２　あなたは座るのも立つのも知り／遠くから私の思いを理解される。３　旅するのも休むのもあなたは見通し／私の道を知り尽くしておられる。４　私の舌に言葉が上る前に／主よ、あなたは何もかも知っておられる。

⑦ 佐藤彰先生は、『まるかじり創世記』で「主の御名を呼び始めたのは、この時代のことである。」についてこう語る

罪人の歴史が色濃く映し出される流れの中で、彼らは「主の御名を呼び始めたのは、この時代のこと」だと言われ、昔も今も変わりません。

私たちはどうにもならない罪の現実の中で、そこからたまらなくなって主に祈り叫ぶのです。取り返しのつかない罪の結末にあえぎ、消すことのできない罪の事実に後ろ髪引かれるような苦しい地上の営みのさなかから、必死に主の御名にすがるようにして、切実なる祈りを立ち上がらせるように。

罪の亡霊にうなされる日々が続くなら、そこから主に祈りましょう。取り返しのつかない現実に打ちひしがれそうになりながらも、そこから思いきって主に祈るのです。罪人の歴史に主の御名による祈りの花を咲かせうるのは、恵みです。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

１節　フランシスコ会訳註より

「カイン」は、鍛冶屋の意味。しかしここではエバが「カイン」とこれに発音の似ている「カナー」（「得る、所有する」）と結びつけたもの。

「カナー」には「産む、造る」の意味もある。神が主語の場合には「創造する」の意味。この意味であるとすれば、本句は神に協力して最初の子を形づくるにあたってのエバの驚きを表現する。

１５節　カインにつけられた「しるし・徴」について

この「しるし・徴」は、カインに与えられた神の憐みである。また、これは、カインに与えられた保証という意味にも読める。

特定の「しるし・徴」が付けられた者だけが救われるという記事は、出エジプト記 12 章の過越の出来事にも見られることを思い出す。

何より、十字架のイエス･キリストの「傷」という「しるし」に連続していくのではないか。

１６節　「カインは主の前を去り、エデンの東、ノド（さすらい）の地に住んだ」の「さすらい」の前に、立ち止まろう。

２５節～２６節の解説

【セトの家系（25 － 26)】

再び、アダムは妻エバを知り、「セト」が与えられる。「セト」はアダムの数ある息子のうちの一人としてではなく、カインに殺されたアベルの代りに与えられた（25節)。

セトという名前の意味は、「置く・備える」ということであり、「土台」とも考えられる。

その「セト」には「エノシュ」(26節・語根には「人・人間」「弱い」の意味がある）が生まれたことは実に興味深い。エノシュが生まれたその頃、人々は「主の御名を呼び始めた」のである。

人を威圧する力を与えられ、町を建てるなど、都市文明を築いたカインの家系にではなく、人間としての弱さ、もろさが認識さ

れる「エノシュ」に続く「セトの家系」を神は選ばれたのである。

２６節　「その頃 主の名を呼び始めた」

しかし、「新改訳」や「新改訳 改訂三版」が訳しているように「祈ることを始めた」と単純に理解することは大事なのではないか。

聖書の中に見いだせる「最初の祈り」とも見えるのがこの箇所であると思う。その頃、人々は主の御名によって祈ることを始めたのである。「その時、その頃」の幅は実に広いのである。

以上